

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月2日

上場会社名 小林製菓株式会社
 コード番号 4967 URL <http://www.kobayashi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 豊
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 グループ統括本部長 (氏名) 山根 聡
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月10日

上場取引所 東大

TEL 06-6222-0084

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	98,683	—	14,672	—	14,127	—	8,782	—
20年3月期第3四半期	202,197	△0.1	15,886	△0.9	13,815	△1.9	7,901	△6.7

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	214.04	213.96
20年3月期第3四半期	191.06	190.87

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
21年3月期第3四半期	128,504	60.4	77,815	60.4	—	—	1,896.92	—
20年3月期	122,409	63.0	77,182	63.0	—	—	1,863.24	—

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 77,674百万円 20年3月期 77,103百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
20年3月期	—	27.00	—	27.00	54.00
21年3月期	—	29.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	29.00	58.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	129,000	△43.6	15,600	△16.0	15,400	△1.8	8,800	3.5	212.66

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
 新規 一社(社名) 除外 一社(社名)(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
 (注) 詳細は4ページの定性的情報・財務諸表等の4. その他をご覧ください。(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
 ② ①以外の変更 無
 (注) 詳細は4ページの定性的情報・財務諸表等の4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年3月期第3四半期	42,525,000株	20年3月期	42,525,000株
② 期末自己株式数	21年3月期第3四半期	1,577,329株	20年3月期	1,143,617株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年3月期第3四半期	41,029,641株	20年3月期第3四半期	41,356,861株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 上記に記載した予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な不確定要素により実際の予想数値と異なる場合があります。なお、売上高の減少の主要因は家庭用品卸事業を営む関係会社が平成20年1月より連結対象外となったことによるものです。また、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用による会計処理の変更の影響が営業利益及び経常利益等の利益に反映されます。
- 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、原油、原材料価格の高騰が企業収益や家計を圧迫するなど、景気の減速懸念は一段と高まりました。また、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融不安の影響などによる企業収益の悪化、雇用者所得の伸び悩みなどを背景に消費者の生活防衛意識はますます高まっております。

そうした状況の中で、当社グループは経営理念である「創造と革新」の精神をフルに発揮し、新市場を創造する製品やサービスの提供により顧客の潜在ニーズを開拓し、また既存の参入市場に対しても新たな付加価値を付けた製品やサービスの提供により市場の活性化に努めました。なお、平成20年1月の株式交換により家庭用品卸事業を営む㈱コバショウが㈱メディセオ・バルタックホールディングスの完全子会社となったため、平成20年3月期第4四半期以降は家庭用品卸事業を営む関係会社が連結対象から外れております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は98,683百万円と前年同期と比べ103,514百万円（△51.2%）の減収、営業利益は14,672百万円と前年同期と比べ1,214百万円（△7.6%）の減益、経常利益は14,127百万円と前年同期と比べ312百万円（2.3%）の増益となりました。当第3四半期連結累計期間の純利益は8,782百万円と前年同期と比べ880百万円（11.1%）の増益となりました。

営業利益が前年同期と比べ減少したのは、主に当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」が適用になり、棚卸資産の評価及び評価・廃棄損に関する会計処理の変更があり、売上原価に影響したことによるものです。

事業の種類別セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

家庭用品製造販売事業

当事業におきましては、今期、蓄膿症を改善していくOTC医薬品「チクナイン」、シミ予備軍をケアするシミ対策の薬用化粧水「ケシミン液」、軽く歩けて疲れにくいソフトテーピング靴下「歩くたすけ」など13品目を発売しました。また、既存の主力ブランドである水洗タンククリーナー「ブルーレット」、口中清涼剤「ブレスケア」、おりものシート「サラサーティ」に加え、通信販売を中心とする栄養補助食品が好調に推移しました。この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は88,974百万円と前年同期に比べ1,336百万円（1.5%）の増収となりました。また、当連結会計年度から「棚卸資産の評価に関する会計基準」が適用になり、棚卸資産の評価及び評価・廃棄損に関する会計処理の変更が売上原価に影響したことから、当第3四半期連結累計期間の営業利益は14,509百万円と前年同期に比べ1,593百万円（△9.9%）の減益となりました。

(売上高の内訳)

	平成20年3月期第3四半期 連結累計期間		平成21年3月期第3四半期 連結累計期間		増減	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
医薬品	16,819	19.2	16,169	18.2	△649	△3.9
口腔衛生品	9,922	11.3	10,487	11.8	565	5.7
衛生雑貨品	11,457	13.1	11,967	13.4	510	4.5
芳香・消臭剤	25,688	29.3	25,540	28.7	△147	△0.6
家庭雑貨品	3,610	4.1	3,440	3.9	△170	△4.7
食品	9,249	10.6	9,856	11.1	607	6.6
カイロ	10,890	12.4	11,512	12.9	621	5.7
合計	87,637	100.0	88,974	100.0	1,336	1.5

(注) 売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は平成20年3月期第3四半期連結累計期間では計26,297百万円、平成21年3月期第3四半期連結累計期間では計19百万円となっております。

医療関連事業

当事業におきましては、国内で市場の拡大が見込まれる整形外科領域、手術室関連領域においてブランド認知とシェア拡大を目指した活動を展開しました。この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,352百万円と前年同期に比べ515百万円(6.6%)の増収となりました。当第3四半期連結累計期間の利益においては、引き続き米国イーベント社の人工呼吸器事業への投資をしていることなどから、営業損失は260百万円(前年同期営業損失317百万円)となりました。

(売上高の内訳)

	平成20年3月期第3四半期 連結累計期間		平成21年3月期第3四半期 連結累計期間		増減	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
小林メディカルカンパニー	6,430	82.1	6,961	83.4	530	8.3
イーベント社	605	10.2	518	6.2	△86	△14.3
その他	799	7.7	872	10.4	72	9.0
合計	7,836	100.0	8,352	100.0	515	6.6

(注) 売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおりません。

その他事業

上記の2事業をサポートする当事業(運送業、販売促進・市場調査等)では、各社が独立採算で経営をしているものの、主要2事業への利益貢献もその目的としており、資材やサービス提供についてその納入価格の見直しを適宜行いました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は5,957百万円と前年同期に比べ247百万円(4.0%)の減収、営業利益は430百万円と前年同期に比べ96百万円(28.8%)の増益となりました。なお、売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は平成20年3月期第3四半期連結累計期間では計4,799百万円、平成21年3月期第3四半期連結累計期間では計4,580百万円となっております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

流動資産は、前連結会計年度と比べ増加し74,803百万円となりました。これは現金及び預金、受取手形及び売掛金の増加、有価証券の減少などがあったことによります。

固定資産は、前連結会計年度と比べ減少し53,700百万円となりました。これはリース会計適用によるリース資産の増加、のれん、投資有価証券の減少などがあったことによります。

この結果、総資産は128,504百万円となりました。

負債は、前連結会計年度と比べ増加し50,689百万円となりました。これは支払手形及び買掛金、未払金、リース会計適用によるリース負債の増加などがあったことによります。

純資産額は前連結会計年度末と比べ増加し77,815百万円となりました。これは利益剰余金の増加、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定の減少などがあったことによります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高においては期初計画に比べ若干下回って終了しましたが、利益においては利益率の高い既存品が堅調に推移したことに加えコストダウンを実施した結果、概ね予想通りとなりました。

今後も国内外の景気後退は続き、市場環境はより一層厳しくなるものと予想されますが、既存品の拡販、付加価値の高い新製品の上市、コストダウン活動などの取り組みをより強化していくことで、現時点では業績の大きな変動が想定されないことから、平成20年5月8日発表の連結業績予想を変更しておりません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

・簡便な会計処理

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

②棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

③法人税等の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

・会計書類基準に関する事項の変更

①「四半期財務諸表に関する会計基準」の適用

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②重要な資産の評価基準及び評価方法の変更

棚卸資産

通常の販売目的で保有する棚卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

これによる損益及びセグメント情報に与える影響は軽微であります。

また、当該基準の適用に伴い、従来、営業外費用及び特別損失に計上していた棚卸資産の評価・廃棄損は売上原価として表示しております。

これにより、営業利益が1,398百万円、経常利益が307百万円減少しておりますが、税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

③リース取引に関する会計基準などの適用

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号（平成5年6月17日（企業会計審議会第一部会）、平成19年3月30日改正））及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号（平成6年1月18日（日本公認会計士協会 会計制度委員会）、平成19年3月30日改正））が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間から、これらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

これによる損益及びセグメント情報に与える影響は軽微であります。

(4) 追加情報

当社及び国内連結子会社の機械装置の耐用年数については、第1四半期連結会計期間より、法人税法の改正を契機として見直しを行い、一部の機械装置について耐用年数を変更しております。

これによる損益及びセグメント情報に与える影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,042	17,164
受取手形及び売掛金	35,267	26,231
有価証券	1,002	5,799
商品及び製品	11,019	9,934
仕掛品	591	630
原材料及び貯蔵品	2,090	1,788
その他	4,841	4,524
貸倒引当金	△51	△3
流動資産合計	74,803	66,069
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,146	7,399
機械装置及び運搬具（純額）	1,513	1,471
土地	5,244	5,244
その他（純額）	3,320	1,119
有形固定資産合計	17,224	15,235
無形固定資産		
のれん	8,907	10,675
その他	2,340	2,127
無形固定資産合計	11,247	12,803
投資その他の資産		
投資有価証券	19,703	24,677
その他	5,720	3,697
投資損失引当金	△109	—
貸倒引当金	△86	△73
投資その他の資産合計	25,228	28,301
固定資産合計	53,700	56,340
資産合計	128,504	122,409

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,472	15,317
短期借入金	551	726
未払金	13,316	12,995
未払法人税等	3,667	3,690
返品調整引当金	1,538	1,245
賞与引当金	928	1,755
その他	4,072	2,210
流動負債合計	41,547	37,940
固定負債		
長期借入金	207	—
退職給付引当金	4,588	4,486
役員退職慰労引当金	1,539	1,451
その他	2,806	1,348
固定負債合計	9,141	7,286
負債合計	50,689	45,226
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,450	3,450
資本剰余金	4,219	4,213
利益剰余金	78,606	72,129
自己株式	△4,705	△3,230
株主資本合計	81,570	76,562
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,332	1,571
繰延ヘッジ損益	△1,125	△690
為替換算調整勘定	△1,438	△339
評価・換算差額等合計	△3,896	540
新株予約権	126	63
少数株主持分	14	16
純資産合計	77,815	77,182
負債純資産合計	128,504	122,409

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	
売上高	98,683
売上原価	44,547
売上総利益	54,136
販売費及び一般管理費	39,463
営業利益	14,672
営業外収益	
受取利息	116
受取配当金	236
受取ロイヤリティー	413
その他	169
営業外収益合計	935
営業外費用	
支払利息	114
売上割引	952
持分法による投資損失	60
為替差損	235
その他	117
営業外費用合計	1,481
経常利益	14,127
特別利益	
営業権譲渡益	1,102
投資有価証券売却益	382
その他	76
特別利益合計	1,560
特別損失	
製品回収に伴う臨時費用	76
固定資産除売却損	67
投資損失引当金繰入額	109
その他	28
特別損失合計	282
税金等調整前四半期純利益	15,405
法人税、住民税及び事業税	6,644
法人税等調整額	△19
法人税等合計	6,625
少数株主損失(△)	△1
四半期純利益	8,782

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

	家庭用品製造販売事業 (百万円)	医療関連事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	88,954	8,352	1,376	98,683	—	98,683
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	19	—	4,580	4,599	(4,599)	—
計	88,974	8,352	5,957	103,283	(4,599)	98,683
営業利益又は営業損失(△)	14,509	△260	430	14,679	(6)	14,672

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各事業の主な製品

- (1) 家庭用品製造販売事業…… 家庭用医薬品、口腔衛生品、衛生雑貨品、芳香・消臭剤、家庭雑貨品、食品、カイロ
- (2) 医療関連事業……… 医療機器
- (3) その他事業……… 運送業、合成樹脂容器の製造販売、保険代理業、不動産管理、広告企画制作

3. 会計処理の方法の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」1.(1)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益が、家庭用品製造販売事業で1,381百万円、医療関連事業で13百万円、その他事業で2百万円減少しております。

4. 事業の種類別セグメント情報の一部事業の除外について

従来、主要な種類別セグメントであった家庭用品卸事業につきましては、平成20年1月の株式交換により家庭用品卸事業を営む(株)コバショウが(株)メディセオ・パルタックホールディングスの完全子会社となり、平成20年3月期第4四半期以降は家庭用品卸事業を営む関係会社が連結対象から除かれたため、第1四半期連結会計期間より事業の種類別セグメントから除外しております。

[所在地別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

本邦の売上高の金額は、全セグメントの売上高の合計額に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

海外売上高の金額は、連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

区分	前四半期連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)	
	金額 (百万円)	百分比 (%)
I 売上高		202,197 100.0
II 売上原価		135,847 67.2
売上総利益		66,349 32.8
III 販売費及び一般管理費		50,462 25.0
営業利益		15,886 7.8
IV 営業外収益		
1. 受取ロイヤリティー	329	
2. 受取利息	117	
3. その他	768	1,214 0.6
V 営業外費用		
1. 棚卸評価廃棄損	2,015	
2. 売上割引	983	
3. その他	287	3,286 1.6
経常利益		13,815 6.8
VI 特別利益		
1. 営業権譲渡益	1,277	
2. 固定資産売却益	1	
3. その他	264	1,543 0.8
VII 特別損失		
1. 固定資産処分損	68	
2. 棚卸評価廃棄損	617	
3. 投資損失引当金繰入額	119	
4. 減損損失	15	
5. その他	539	1,360 0.7
税金等調整前第3四半期純利益		13,998 6.9
法人税、住民税及び事業税	5,995	
法人税等調整額	102	6,097 3.0
少数株主損失(△)		△0 △0.0
四半期純利益		7,901 3.9

(2) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前年同四半期（自平成19年4月1日 至平成19年12月31日）

	家庭用品 製造販売 事業 (百万円)	家庭用品 卸事業 (百万円)	医療関連 事業 (百万円)	その他事 業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	61,340	131,615	7,836	1,405	202,197	—	202,197
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	26,297	359	—	4,799	31,456	(31,456)	—
計	87,637	131,975	7,836	6,204	233,653	(31,456)	202,197
営業費用	71,535	131,879	8,154	5,869	217,438	(31,127)	186,310
営業利益又は営業損失(△)	16,102	96	△317	334	16,215	△328	15,886

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各事業の主な製品

- (1) 家庭用品製造販売事業…… 家庭用医薬品、口腔衛生品、衛生雑貨品、芳香・消臭剤、家庭雑貨品、食品、カイロ
- (2) 家庭用品卸事業…… 家庭用医薬品、雑貨及び食品
- (3) 医療関連事業…… 医療機器
- (4) その他事業…… 運送業、合成樹脂容器の製造販売、保険代理業、不動産管理、広告企画制作

〔所在地別セグメント情報〕

前年同四半期（自平成19年4月1日 至平成19年12月31日）

本邦の売上高の金額は、全セグメントの売上高の合計額に占める割合が90%超であるため、記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前年同四半期（自平成19年4月1日 至平成19年12月31日）

海外売上高は連結売上高の10%未満のため、記載を省略しております。